

アジア大洋州地域における 税関能力向上に貢献

—カンボジア政府から税関職員3名に叙勲—

関税局参事官室（国際機構担当）関税国際交渉専門官
（前 WCO キャパシティ・ビルディング・アジア大洋州地域事務所長）

松本 敬



カンボジアからの友好
勲章を授与された筆者

はじめに

2009年7月7日、カンボジア経済財務省関税消費税総局において、カンボジア政府から我が国税関職員3名に対する「SAHAMETRI」勲章の授与式が行われた。SAHAMETRIは日本語では友好勲章と称されており、カンボジアの近代化に貢献した外国人に対して授与されるものである。小職の受勲理由は、WCO（World Customs Organization：世界税関機構）キャパシティ・ビルディング・アジア大洋州地域事務所（Regional Officer for Capacity Building：ROCB）を通じて実施したカンボジア税関当局に対する技術協力及びカンボジア税関近代化5カ年計画の作成支援等が評価されたことである。この機会にWCO及びROCBの行っているキャパシティ・ビルディングについて、ご紹介したい。

なお、同勲章は、JICAを通じて税関分野の長期専門家としてカンボジア税関当局に派遣されていた石橋寛人氏（現税関研修所教官）及び植野修平氏（現神戸税関神戸外郵便出張所長）にも、カンボジア税関当局の改革と近代化に貢献したとして、併せて授与された。今回、我々3名が授与されたが、これは、これまで、我が国関税局・税関が、WCO、JICA及び二国間協力

を通じてカンボジア税関当局に対して実施してきた関税技術協力の成果が高く評価されたものであると考えている。授与式の模様は現地の多くのメディアで取り上げられ、高い注目を集めた。

WCO（世界貿易機構）とは

WCOは、各国税関制度の調和・統一と税関当局間の国際協力により国際貿易の発展に貢献することを目的に1952年に設立された税関・関税行政に関する唯一の専門的国際機関で、我が国は1964年に加盟した。

本部はベルギーのブリュッセルに設置され、2009年8月現在、174カ国・地域が加盟し、事務総局長以下136名の職員が従事している。現在、我が国財務省から、御厨事務総局長（2009年1月から現職）、2名の専門職員及び8名の専門アタッシュがWCO事務局及びROCB等の活動に貢献している。

WCOの活動は、①条約及び基準の作成を通じた税関手続きの簡素化及び調和化、②税関とビジネスの関係強化を通じた国際貿易の安全確保及び円滑化の推進、③税関間協力を通じた国際的な監視・取締強化、④キャパシティ・ビルディングを通じた税関能力の向上等多岐にわ

たっており、これらを通じて、世界貿易の迅速化・円滑化と安全確保に貢献してきている。

WCO のキャパシティ・ビルディング

WCO のキャパシティ・ビルディング（以下「キャパビル」という）とは、従来の税関職員に対する人材能力向上を目的とした関税技術協力に加え、機構改革やマネジメント能力の向上による組織力の強化、通関手続きの電子化やコンテナ X 線検査装置等の導入による設備の近代化等包括的な税関能力の向上を図ることを指す。

WCO は設立以来、加盟国・地域の税関の改革と近代化を支援する目的で関税技術協力を戦略計画の柱の一つとして実施してきた。しかしながら、長年の関税技術協力事業の実施にもかかわらず、大きな成果が得られていないとの反省に基づき、2003 年 6 月に開催された WCO 総会において、今後の包括的な支援の方向性を取り纏めた WCO キャパビル戦略を承認した。当該戦略には、WCO が行うキャパビル戦略の一つとして、地域¹のニーズを的確に把握し、ニーズに沿ったキャパビルを実施する、キャパビル地域アプローチが盛り込まれた。

2004 年 4 月に開催された WCO アジア大洋州地域の関税局長・長官会合において、キャパビル地域アプローチの具体化に関する議論がなされ、その結果、アジア大洋州地域のキャパビル支援策を具体化するための新たな組織として ROCB をタイのバンコクに設置することが合意された。

ROCB の設立

WCO アジア大洋州の主要メンバーである我が国関税局は、バンコクに ROCB を設立するために、2004 年 6 月、職員 1 名をタイに派遣し、タイ税関と協力して ROCB 設立に向けて作業を開始した。タイの財務省、外務省及び法制局等関係機関と協議を重ねた結果、2004 年 9 月 7 日、ROCB 設置がタイの閣議において了承され、その設置がタイ政府により正式に承認された。

ROCB は 2004 年 10 月から、正式に活動を開始し、我が国はアジア大洋州地域の要請に基づき ROCB に所長を派遣するとともに、専門職員を派遣する等、キャパビル支援策を具体化するための活動を積極的に実施している。ROCB では、2009 年 8 月現在、日本（2 名）、韓国（1 名）、中国（1 名）、タイ（2 名）の計 6 名が常勤している。

ROCB の活動

ROCB は、税関の行政能力の向上を図り、効率的・効果的な税関行政の実現することを目的として、①基準の枠組み²の推進、②関税技術協力の実施、③ドナー機関との協力強化、及び④調査研究を 4 本柱として活動を実施している。

具体的には、①基準の枠組みの分野では、WCO と協力して要請のあった税関に業務診断ミッションを派遣し、基準の枠組みに含まれる

¹ WCO は世界を 6 つの地域（アジア大洋州地域、米州地域、欧州地域、東・南アフリカ地域、西・中央アフリカ地域及び北アフリカ・中近東地域）に分け、各種活動を実施。

² 基準の枠組み：2001 年 9 月の米国同時多発テロを受けて、WCO が取り纏めた国際貿易の安全確保と円滑化の両立を図るための基準。税関相互の協力及び税関と民間とのパートナーシップの 2 本柱の下に認定事業者（AEO）制度の導入等 17 の基準を設定。2009 年 8 月現在、156 カ国・地域の税関当局が実施の意図を表明。

国際貿易の安全と円滑化を図るための国際的な標準と現状とのギャップ分析及び改善のための提言を実施し、更にその改善のための提言を具現化するための行動計画の作成支援等を行っている。今回の受勲はこの分野の活動がカンボジア税関当局の改革と近代化に大きく貢献したと評価されたものである。次に、②技術協力分野では、関税分類、関税評価、リスク・マネジメント等の税関技術に関して、地域メンバーを対象としたセミナーやワークショップを開催して WCO 等が作成した国際条約や国際的な基準の導入を支援している。また、③ドナー機関との協力の分野では、世界銀行やアジア開発銀行等のドナー機関が実施する途上国税関を対象とした近代化支援策と各途上国税関当局が支援を要請している分野とのマッチングや、ドナー機関が実施する技術支援への税関分野における専門家の派遣を実施している。最後に、④調査研究分野では、アジア大洋州地域の税関当局が取り入れている様々な分野のベスト・プラクティスを調査・分析し、その結果を集約したレポートを作成してアジア大洋州地域を含めた WCO メンバーに配信することにより、ベスト・プラクティスの発掘とその紹介、ベスト・プラクティスを活用した税関近代化のための支援を図っている。

このようなアジア大洋州地域に設置された ROCB の活動は、WCO 事務局及び他地域の ROCB³ から高く評価され、今では、他の地域に設立された ROCB のモデルとされている。更に、その活動はドナー機関や外国政府からも注目を集めており、2008 年 5 月には、オゾン層保護に関するセミナー等の実施が評価され、米国政府から Ozone Layer Protection Award⁴

が授与された。

終わりに

各国・地域の税関は、国際移動を伴う貨物（郵便物及び旅客の携帯品を含む）を検査し、関税等を徴収する業務、国際物流の安全確保や円滑化を支援する業務、不正薬物等の社会悪物品や知的財産権侵害物品の取締業務、貿易統計の集計業務等、国境における様々な業務を行っている。税関に対するキャパビリティは、関税・税関制度の統一化・調和化・簡素化・透明化を図り、適正かつ迅速な通関手続や物流コストの低減による貿易手続の円滑化や投資環境の改善に大きく寄与している。また、キャパビリティの成果として、その国への海外直接投資を含む経済活動の活発化を図り、税収の確保や増加による国家財政の安定、不正薬物・銃砲・知的財産権侵害物品等の密輸防止による地球規模における安全・安心な社会の構築が図られている。これは、キャパビリティ支援の対象国のみならず、国際貿易及び海外投資に大きく依存する我が国にとっても重要な意味を持っている。



米国から Ozone Layer Protection Award を授与される ROCB 小田嶋次長（右）

³ WCO の 6 地域すべてに ROCB が設置又は設置準備中（欧州地域）。

⁴ アメリカ合衆国環境保護局よりオゾン層保護に顕著な貢献を行った個人、企業及び組織等へ与えられる賞